

令和6年1月30日

外来カミキリ種に対する取り組み提案書

東京都知事 小池百合子 様

TCA 東京 ECO 動物海洋専門学校
野生動物保護専攻2年一同

掲題の件につきまして、下記のとおり、提案いたします。

記

I. 提案

東京都23区及び多摩地域における外来カミキリの被害を減少させるため、学校等と連携した、早期発見・駆除の実施

II. 趣旨

クビアカツヤカミキリによる東京都23区及び多摩地域の被害は勢いを増しており、未だ被害がない地域に広がってしまうのも時間の問題かと思えます。このままでは、多くの都民が毎年楽しみにしているサクラの花見ができなくなる恐れがあります。それを防ぐためには、早期発見と駆除が必要です。現在、都ではインターネットサイト等でクビアカツヤカミキリの早期発見・防除を呼び掛けていますが、より積極的な対策が必要と思えます。

昨年、埼玉県では「クビアカツヤカミキリ発見大調査2023」という県民や団体に主体的に調査を行ってもらうプロジェクトを実施しています。このプロジェクトは埼玉県の環境科学国際センターが先導して行っており、県内の被害情報の収集を素早く行える手段として役立っています。現に、県内の被害状況や発見情報を視覚化した地図がこのプロジェクトのデータをもとに制作されており、次の調査を行う際の大事な情報源となっております。また、このプロジェクトに伴ってサクラの植栽地点も地図化されており、県民が直観的に調査に出向きやすい環境づくりも行われています。

東京都としましても、これからの対策を講じるべきかと思われます。そこでクビアカツヤカミキリへの防除策として次の対策を提案させていただきます。

III. 詳細

① 都内にある学校やNPO/NGOからの発見情報の収集

クビアカツヤカミキリの被害を防ぐには早期発見が何よりも大切です。そのために、学校やNPOなどの団体と協力して調査を行うべきかと思えます。

そのため、まずは学校と協力し、データの収集と合わせて調査を行うために必要なデータの準備を行います。学校は子どもを通じて保護者にも情報を拡散することができ、また、公立だけでも2,000校ほどもあるため、様々な地域で調査を展開できる可能性があります。具体的な策としては、小中学校の総合学習のような授業や生物部・理科部といった部活動の一環として協力を呼び掛けることが挙げられます。そして、調査方法が確立し次第「自然環境アカデミー」や「まちづくり推進機構」などのようなNPO等の団体との協力調査を行うことで段階的な地域住民への浸透を狙うことができます。それに加え、富士通株式会社や日本電信電話株式会社など多くの企業が社会貢献としてCSR活動に力を入れており、その活動の一環として環境保全活動は重視されているため、学校や公益法人に限らず企業とも協力を行っていくと良いかと思えます。

② ①の情報を都のインターネットサイト等で発信

先述した通り、都民への調査の普及には環境づくりが必要であり、サクラの植栽地点や実際の調査データなどを一般向けに整理し公開するべきだと思えます。現在都が行っている防除の手引などの情報発信に加えて、目的や調査方法などを分かりやすくまとめたインターネットサイトを作成することで、基礎的・専門的問わず情報にアクセスできるため、多くの方が目を通すことができると思えます。また、学校やNPOなどの団体との協力調査に関して都民に周知させることで、調査に参加することへのハードルを下げ、より気軽に参加をしてもらえるように促すことができます。ハードルを下げること、他学校や団体との協力が行いやすくなるに加えて、将来的に都民参加型の大規模な調査を計画した際に、より多くの都民に参加してもらえる可能性が高く、効果的なクビアカツヤカミキリの早期発見・駆除の実施を行えると思えます。

以上